

私のすすめるこの1冊

向井 浩 (理学科 教授)

『生命の惑星 –ビッグバンから人類までの地球の進化』

チャールズ・H・ラングミュアー、ウォリー・ブロッカー(著)、宗林由樹(訳)

夜空の星を見上げながらふと、この宇宙のどこかに人類以外の知的生命体が存在するのではないかと、そんなことを思ったことが誰にでもあるのではないだろうか。ここで紹介する一冊は、それに答えを出すわけではないが、そんな疑問に対する科学的な考え方を示してくれる本である。

本書の原題は『How to Build a Habitable Planet: the Story of Earth from the Big Bang to Humankind』で、生命の生存可能な惑星である地球の歴史が、物語を語るように会話体で展開される。本書は、著者の一人ラングミュアー(ハーバード大学教授・地球化学者)の大学での講義に基づいている。一般読者向けの科学啓蒙書といった位置づけではあるが、A5判の本の厚さは4cmあまり、ずっしりと重い本である(現在は、軽装版上下2巻で販売されている)。21章、656頁の分量に、それだけで読むのを躊躇う人もいるかもしれない。しかし分量が多いのは、盛り込まれたそれぞれの話題を基礎から懇切丁寧に説き明かしているからでもある。また、論の根拠となる科学データが、表、図、写真で豊富に示されているからでもある。このため、実際に読んでみると、納得しながら飽きずに読み進めることができると思う。

本書の特筆すべき特徴は、全体がシステム思考(systems thinking)で貫かれている点である。著者は、伝統的な科学アプローチである還元主義(reductionism)は「全体が部分の和に還元できることを前提とする」のに対し、シス

テム思考は、「全体は部分の和以上」であり、「全体から生じる創発特性(emergent properties)があることを強く主張する」としている。このシステム思考に基づくと、現象の理解には、還元された部分だけでなく、部分間の関係も知ることが必要となる。これを地球というシステムに当てはめると、地球を構成する大気、海洋、土壌、生物圏の部分だけでなく、部分間に働く、フィードバックや物質循環・エネルギー循環の理解なしには、地球の姿を正確に捉えることはできないということになる。さらに、フィードバックや循環といった部分間の関係が、まさに地球を生存可能な惑星にしている重要な要因だとする。近年、システム思考は、社会が直面するグローバルな課題の解決と持続可能な開発への貢献を図るため、化学教育への適用が試みられているところである。本書は、こうした化学教育の潮流を形成するものの一つといえる。

最終章の第21章の題目は、「私たちはひとりぼっちか? 宇宙の生存可能性についての疑問」である。本書で説かれた偶然と必然とが織りなしてできた地球のような惑星システムは、宇宙の中で稀有なのかそうでないのか、人類は他の知的生命体と接触できるのか否か、について議論されている。もちろんその明確な答えはない。本書を読み終えた読者が、地球の歴史を踏まえ、どう感じ、どのような答えを出すのか、自分自身に問いかけてみてほしいと思う。



学修相談カウンター

で先輩に相談してみよう！
 京教の先輩が勉強や教育実習などのお悩みに対応してくれます。ぜひ気軽にお立ち寄りください♪
 【時間】授業期間の平日 2～4 限のうち該当の時間
 (毎月のスケジュールは図書館ホームページ等でご確認ください)
 【場所】北館 2 階 ラーニングcommons

たとえばこんなことが相談できます。

- ★授業や勉強でわからないところを聞きたい！
- ★レポートってどうやってとりかかればいいのか？
- ★プレゼンや研究発表を見てほしい！
- ★教育実習について先輩の話を聞きたい
- ★教採の過去問の解き方を教えてほしい
- ★大学院進学を考えているので院について知りたい
- ★Word、Excel などをもっと便利に使いたいなど

一般的な内容に加えて、学修支援員の専門分野を生かした学修相談も可能です。
 対応可能な分野や時間、その他詳細については図書館ホームページ等をご確認ください。

時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する…
 などの場合はメールでの相談も受け付けています。
 宛先：library@kyokyo-u.ac.jp



☆☆図書館は、いつもみなさんの「まなび」を応援しています☆☆



保育士試験対策コーナー

保育士試験に関連する絵本・紙芝居を集めました！☆貸出できます
 【期間】6月3日(金)～7月2日(土)
 【場所】南館 1 階 児童書コーナー
 ・「ももたろう」
 ・「3びきのこぶた」
 ・「おおきなかぶ」
 ・「3びきのやぎのがらがらどん」



ブックハンティングを実施します！

ブックハンティングとは、学生のみなさんが、図書館職員と一緒に書店に行って本を手に取り、図書館に置いてほしい本を選ぶ選書ツアーです。昨年はWeb開催となりましたが、今年は店舗で実施予定ですので、ぜひご参加ください！

【日時】2022年7月1日(金)または7月6日(水) 13:30～〔予定〕
 【場所】丸善京都本店(河原町 BAL 内)

※現地集合。所要時間は1～2時間程度で、選書が終われば各自解散
 ※申込方法等詳細は後日図書館HPに掲載予定です。



リクエストと投票で話題の本を読もう

学生・教職員のみなさまからのリクエストをお待ちしています。
 どんどん参加してください！リクエストは随時受付中です。

6月の投票期間は
6月3日(金)～6月20日(月)

※結果によっては購入できないこともあります。
 ※学習研究目的のものは原則として購入しています。



eBook(電子書籍)の試読について

以下の内容でeBook(電子書籍)が試し読みできます。図書館で購入していないタイトルでも中身を見ることができますので、この機会にぜひご利用ください。

KinoDen(紀伊國屋書店)

2022年6月20日(月)～8月19日(金)
 和書を中心に約4万冊、5分間の試し読みができます。

EBSCO eBook(EBSCO)

2022年6月20日(月)～9月19日(月)
 洋書を中心に約22万冊を閲覧できます。

京都教育大学
それはかなう夢講座

「先生になりたい - それはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第31回の報告

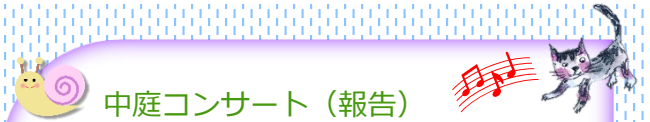
YouTubeで公開されました。
※現在も視聴できますのでどうぞ！

<https://www.youtube.com/watch?v=TyuTZDEGiQ0>

※YouTube公開のみです

【講師】清村百合子（音楽科 教授）
【テーマ】子どもたちが紡ぐ音の世界

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト委員会
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



中庭コンサート（報告）

5月26日（木）13：15から13：45まで附属図書館の研修・セミナー室1で、音楽科の山口博明教授と器楽基礎演習受講生のみなさんによる、トーンチャイム・ハンドベル・手持ち木琴のミニコンサートが開催されました。京都教育大学学歌や、美しい楽曲で心癒やされる音色が響きわたりました。



（雨天のため中庭ではなく、研修・セミナー室1で開催されました。）

西館2階
机を新しく
しました。



児童書コーナー（南館1階）

幼児教育科主催
えほんのもし

※児童書コーナーにかわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

今月の絵本カード（学生作）



『かたつむりののんちゃん』作：高家 博成 仲川 道子
出版社：童心社

ブックレポート応援コーナーを設置しています。

テーマは「真面目に勉強」はカッコ悪くない！
一歩先を行きたい京教生のためのおすすめ本！

教育学科必修科目「教育の理念と歴史」との協同事業として、ブックレポートのためのおすすめ図書の展示をおこなっています。（6月9日迄）



教育資料館 まなびの森ミュージアム

【6月の開館日時】
6日（月）、13日（月）、20日（月）、27日（月）
14：00～17：00

今月の逸品（6・7月）

『コツ kop』
タイ（東南アジア）

展示場所：図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **佐川 早季子** (幼児教育科 准教授)

「保育者の『その子』の捉えに基づく3歳児クラスの素材環境構成の検討」

佐川 早季子

京都教育大学紀要 2022, No.140, pp.71-82.
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9680>

保育は、子ども一人ひとりを理解することが出発点となります。とはいえ、子どもは一人ひとり違う個性をもっていますし、物理的環境は園ごとに異なりますので、「こうすればよい」という普遍的な理論(Theory)を見出すことはできません。それぞれの園で、「その子」に応じた保育を考え、それを実際の子どもの姿で確かめることで、少しずつ実践のなかでの理論(theory)が生成されると考えています。

そこで、本研究では、何らかの教育的働きかけが必要だと保育者が感じている子どもに対し、保育者と研究者(筆者)が協働で、環境構成を構想し実践するアクション・リサーチを行いました。私立M保育所3歳児クラスのA児について、担任保育者は「普段から感情を表に出さず、製作コーナーで、他の子どもがやっていることを傍観していることが多い」という捉えを語り、「自分がつくりたいと思うものをイメージしてつくり、表現してほしい」という願いを語りました。そこで、A児が表現することを支える環境構成についての仮説を立て、製作コーナーの環境構成を変更しました。その仮説とは、A児は、「イメージを周囲にある物や人で確かめながらつくりたい」のではないかと、そのためには「落ち着き」「イメージの生成と保持」「素材との出会い」を目的とした環境構成が必要ではないかというものです。仮説に基づいて環境構成を実践したところ、A児は次々とイメージを生み出し、表現してきました。

保育に関わる研究者として、実践のなかで生成される理論を言葉にし、共に実践を創っていくことができたら幸いです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要140号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2022年6月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6/1 創立記念日

2022年7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

7/6 館内整理日

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>

●携帯版 OPAC

(QRコード→)

<https://toshokyo2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.261 (2022年6月号)

発行日:2022年6月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

